

“カプセル内視鏡小腸検査”とは

カプセル内視鏡検査って何？

カプセル内視鏡検査とは

カメラを内蔵した長さ26mm×幅11mmのカプセルをビタミン剤のように口から飲み込むだけの小腸の内視鏡検査です。

カプセルは消化管を通過しながら画像を撮影し、記録装置に転送します。医師はこの画像をもとに小腸の診断を行います。

※非常に稀ですが、カプセルが消化管内の病変により、体内に滞留する報告があります。

カプセル内視鏡検査の特徴

これまでの胃腸の検査とくらべ、カプセルを飲み込むだけの体の負担が少ない検査です。

検査中は日常生活ができます。

検査開始2時間後からお水、4時間後から軽い食事を取る事ができます。

※ただし、胃カメラや大腸カメラの代わりになるものではありません。検査が必要かどうかは担当医が決定し、ご本人のご希望だけでは検査を実施できませんのでご注意ください。

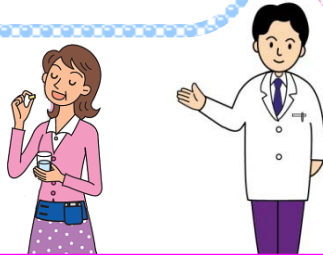
正確な診断に役立ちます

小腸は、全長が6m～7mと長く、全消化管の75%を占める、体内で最も長い臓器であり、従来の内視鏡やその他の検査方法では十分な観察が出来ませんでした。そのため、優れた検査方法の開発が望まれていました。

カプセル内視鏡検査は、従来、他の小腸検査では見逃されてきた病変の検出が可能であることを証明しました。

特に原因不明の消化管出血例のうち小腸腫瘍が発見された症例は約9%にのぼり、そのうち約半数が悪性腫瘍であったとの報告もありました。

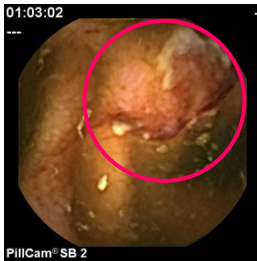
一個のカプセルを飲むことで小腸内視鏡検査ができ、原因不明の消化管出血の原因が明らかになり、さらには早期診断、早期治療の可能性となる検査です。



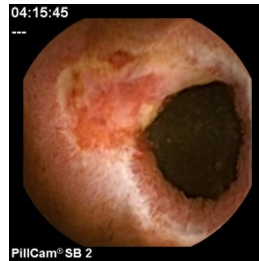
↑ 実物大の大きさとなります。

当院での結果

【症例】70歳女性 消炎鎮痛剤内服中の原因不明の消化管出血



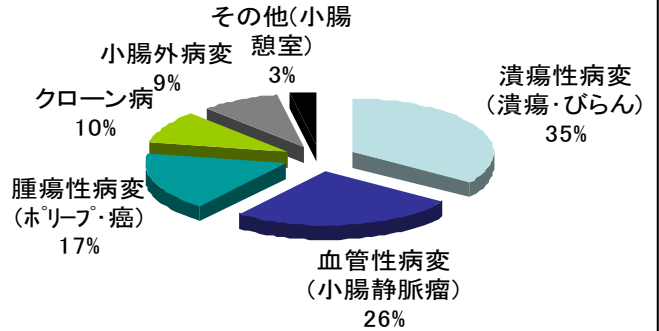
潰瘍からの出血



狭窄を伴う潰瘍

【結果】潰瘍、出血、狭窄が認められる。その後、消炎鎮痛剤の内服中止により症状が軽快しました。

カプセル内視鏡により確定診断がついた疾患例



※ 文献 Gastroenterol Endoscopy, 49(3):324-334,2007 より引用

～ カプセル内視鏡検査の流れとは ～

検査の前日

・前処置は、前日の夕食後(22時以降)の絶食のみです。

検査開始

・朝アンテナを体に取付、記録装置をベルトで腹に付けます。
・カプセル内視鏡を適量の水で飲み込み、その後は職場に、ご家庭にお戻りいただけます。

検査終了

・およそ8時間後、病院に戻り、アンテナと記録装置を取り外します。
・カプセルは排便時に、体外に排出されます。

今年度より当院でも導入致しました。

このような症状が続いてお困りの患者さまはいらっしゃいませんか？

『原因不明の出血や貧血』

主治医にご相談ください。